

○安心院オーガニックファームは、同一地域内に所在する酒造メーカーの焼酎副産物である焼酎かす（生ヘコ）を主原料とし、地域の未利用資源を自社で堆肥化、自社利用。

■ 国内資源の種類

- ・焼酎かす（生ヘコ）
※主原料
- ・牛ふん ・鶏ふん
- ・おから ・草木 等

■ 肥料の種類・肥料名称

焼酎製造時に発生する副産物で大
麦固形分の繊維質残渣である生ヘ
コを主原料とした自社製造堆肥
（通称：生ヘコ堆肥）

■ 取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯

- ・大分県への新規参入で有機農業の取組を始める際、有機資材を確保するため行政機関へ相談。地元酒造メーカーから出る生ヘコの存在を知り、循環型農業として地域資源の利用による堆肥づくりを開始。

取組の内容

- ・酒造メーカーの焼酎製造時に発生する副産物で、大麦固形分の繊維質残渣である生ヘコを主原料に、他の地域資源も利用。地域資源循環に意識の高い畜産農家から牛ふんや鶏ふんを受け入れるほか、地域内のおからや草木なども混合し、自社で堆肥化。製造した肥料は自社利用し、資源循環型農業を実践。



※安心院オーガニックファームHPより

■ 作物

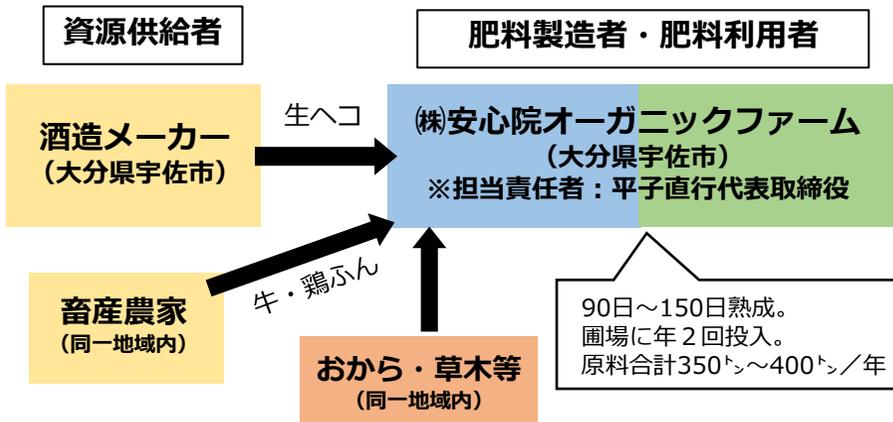
- ・ベビーリーフ
- ・パクチー 等
- 葉物野菜（有機栽培）の周年栽培

■ 主成分の含有量(%)、特徴等

- ・生ヘコは植物由来の原料であるため、肥料成分は少ないが、散布により微生物が増え良質な土壌に変化
- ・生ヘコ堆肥は、地力向上目的の土壌改良剤としての役割



■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



成果

- ・当初の土壌は粘土質の赤土であり、排水性が悪く硬い土であったが、暗きよ設置や定期的なサブソイラによる心土破碎に加え、長年、生ヘコ堆肥を投入した結果、団粒構造で根が張りやすく排水性の良い、微生物の豊かな土に変化。
- ・作付け当初は植付けに対し2割程度の収量だったが、現状では9割程度と、収量が大きく向上。



■ 今後の課題・取組

- ・堆肥化の原料の混合や切り替えしについて、自身の経験に基づき実施しているが、堆肥化製造の後継者への技術継承が課題。
- ・有機堆肥等の原料確保が重要であり、地域内で利用できる堆肥や未利用資源の情報収集を継続。